

農林水産省大臣官房長賞

『思い出の鶏飯』

鹿児島県鹿児島市立伊敷小学校 五年 徳永 悠乃

「やったあ。絶対この日は休まないようにしなきゃ。」

私は、毎月の給食こん立て表を見ると、必ずチェックするメニューがある。私が大好きなそのメニューは、「奄美の鶏飯」だ。それを見つけたら、毎回こんな風にさげぶので、いつもお母さんに笑われてしまう。

私は、小学校二年生まで奄美に住んでいた。奄美の小学校では、一・二ヶ月に一回は給食に鶏飯が出てきた。鶏飯のある日は、クラス全員が大喜び。カレーと同じぐらい、みんなが大好きなメニューで、おかわりも多かった。

小食の食缶のふたを開けると、中には鶏飯の具が別々に分かれて入っている。ふわふわの金糸玉子、ほぐした鶏の身、甘く煮たしいたけ、そしてパイヤのおつけ物。それを給食当番が、白ご飯の上に順番にのせていく。みんなで「いただきます」のあいさつをしたら、すぐにうすい金色のすき通ったスープをご飯にかける、私は、いつもは少ししいたけが苦手だけど、鶏飯のときだけはたくさん食べれたから不思議だった。

三年生の時、お母さん達の仕事で、鹿児島市に引越してきた。最初のころは知っている友達もいないのでさびしく、前の友達にとても会いたかった。奄美に帰りたいなあと思うことが多かった。そんなとき、伊敷小学校の給食で「奄美の鶏飯」がでた。伊敷小学校は、学校で給食を作っている。だからいつも熱々のおいしい給食が食べられる。こちらでも、鶏飯はみんな大好きなメニューの一つだ。私もこの日は、朝から楽しみにしていた。でも、給食の準備のとき、少しびっくりしたことがある。こっちの給食では、鶏飯の具が、玉子も鶏も全部混ぜていたからだ。「奄美の時と少しちがうな」と思いながらも、ごはんの上から温かいスープをたっぷりかけた。スープがおわんからあふれそうになったのでそっと持ち上げて一口食べた。

「おいしい。」

奄美のなつかしい味がした。うれしくなっていていつもよりパクパク食べていたら、となりに座っていた友達がにこにこしながら、

「鶏飯っておいしいよね。私。大好き。」

と話しかけてくれた。私も

「うん。おいしい。私も給食が一番好き。」

と言いながら、パクパク食べていたら、あつという間に食べ終わった。その後も、友達と奄美のことや鶏飯のことなどいっぱい話をした。食べ終わってもなんだか、心がほかほかしていた。

私にとって給食の「鶏飯」は、奄美の思い出がいっぱいまったなつかしい味だ。そして、今の友達をつないでくれた、素敵な給食のメニューだ。だから、将来もつと料理が上手に作れるようになったら、いつか自分でもおいしい鶏飯を作りたいと思う。